

デンカハードロックⅡ

アクリル系樹脂モルタル デンカダイナ N

1 はじめに

デンカダイナ N は液状主剤 (A 剤) と硬化剤含有細骨材 (B 材) からなる室温硬化型変性アクリル系樹脂モルタルで、主に充填接着、断面修復用途に適しています。

2 特 徴

- ①液状主剤 (A 剤) + 硬化剤含有細骨材 (B 材) で取り扱いが容易です。
- ②A 剤と B 材の混合比を変えることで練り上がりの固さ調整が可能です。
- ③低臭気です。
- ④速硬化です。
- ⑤低温硬化性に優れています。

3 品種・荷姿

ダイナには、下記季節別グレードがあります。温度別硬化特性をご参照の上、選択してください。

	液 状 主 剤 (3kg ボトル)	硬化剤含有骨材 (6kg 袋)
夏用組合せ	デンカダイナ NSA	ダイナ NB
冬用組合せ	デンカダイナ NWA	ダイナ NB



4 性状・特性例

項 目		単 位	デンカダイナ NS (Ⅱ) A	ダイナ NB
硬化前の特性				
外 観		—	淡青色粘稠液	灰色粉体
粘 性	粘度	mPa·s/25°C	7,000 程度	—
		mPa·s/10°C	(7,000 程度)	—
比 重	A/B 単独	—	1.2	1.2 [嵩比重]
	A/B 混合時	—	1.85 (A/B=1/1) ~ 2.1 (A/B=1/2.5)	
硬化後の特性 (A/B=1/2)			社 内 規 格	
樹脂物性	圧縮強さ	N/mm ²	40 以上	(JIS K 7181)
	引張強さ	N/mm ²	10 以上	(JIS K 7161)
	曲げ強さ	N/mm ²	20 以上	(JIS K 7171)
接 着 特 性				
引張剪断接着強さ	鉄/鉄	N/mm ²	6.0 以上	(JIS K 6850)
コンクリート接着強さ	乾燥面	N/mm ²	2.0 以上/ 母材破壊	(JIS K 6909)

※デンカダイナ NSA と NWA の差は粘度、硬化時間のみです。硬化後の特性、接着特性に差はありません。

5 硬化特性（可使時間および硬化時間）

デンカダイナ NS(W)の硬化特性		
温度	可使時間	硬化時間
25℃	20分以上	120分以内
(10℃)	(20分以上)	(120分以内)

※混合比：「デンカダイナNS(W) A/ダイナNB=1/2（重量比）」の場合の硬化特性

6 取り扱い方法

1) 準備する資材・器具

- 混合用容器（水・油等で汚染されていないもの）
- 秤（A剤・B材の計量に用いる）
- 攪拌器具（金ペラ、電動ミキサー等）
- 施工道具（左官ゴテ、ゴムペラ等）
- ウェス及びアセトン（洗浄用）
- 保護安全具（保護眼鏡、耐溶剤性手袋、他状況に応じて準備する）
- 施工面乾燥器具（ガスバーナー、対象が濡れ面時に使用）

2) 取り扱い手順

- ①ダイナの施工面を洗浄する。水で濡れている場合にはバーナーで乾燥する。
油等で汚染されている場合には、アセトンを含ませたウェスで汚染物をよく拭き取る。
- ②施工面をディスクサンダーやワイヤーブラシで研磨する。研削粉を除去する。
- ③ダイナのA剤とB材を秤で計量し混合用容器中で攪拌する。
混合比は以下の範囲が基本です。
※B材が多すぎると施工面との付着がよくなかったり、硬化物が粗となるので、以下の混合比からあまり逸脱しないようにして下さい。

基本配合比 A剤（液体）：B材（砂状）＝1：1～1：2.5（重量比）

- ④混合したダイナを施工面へ充填し、コテやゴムペラ等で整形する。
- ⑤硬化養生する。

 <p>警告</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ハードロックIIは消防法の危険物に相当しますので作業場は火気厳禁として下さい。 ●一度に多量の接着剤を硬化させると激しい発熱が生じますので注意して下さい。 ●皮膚や衣服に付着するとかぶれる恐れがありますので早めに石鹸で洗ってください。万一かぶれた場合は医師の手当てを受けてください。 ●作業場所には換気を良くし、保護眼鏡、保護手袋、必要に応じて有機ガス用マスク等の保護具を着用してください。 ●目に入ったり、飲んだり絶対にしないでください。誤って目に入った場合、15分以上流水で洗浄し、医師の手当てを受けてください。また、誤飲した場合、吐かせて医師の手当てを受けてください。 ●湿気や金属との接触を避け、密栓の上冷暗所に保存してください。 ●廃棄する場合は、A/B剤を少量づつ混合し硬化させてから捨ててください。また混合し、硬化した（硬化中の樹脂）は廃棄するまで水中に浸漬させてください。 ●接着剤が付着した可燃物（ウェス、段ボール、養生シート等）、注入用器具も廃棄するまで水に浸漬させて下さい。 ●本製品の硬化物をディスクサンダー等で研磨した場合、研磨した粉末を集めたまま放置すると自然発火するおそれがあります。積もった研磨粉は、掃除機は使用せずに、ほうき等で集めた上、廃棄するまで十分な水に浸けておき、早めに専門の廃棄物処理業者に処理を委託して下さい。 	<p style="text-align: center;">自然発火の注意</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ディスクサンダー等による研削粉は掃除機は使用せずほうき等で集めて十分な水に漬けて廃棄してください。 ・樹脂の付着したウェス、ダンボール、ローラー、刷毛等は十分な水に浸漬させて廃棄して下さい。 ・硬化時に発熱を伴います。 <p style="text-align: center;">◇データ等記載内容についてのご注意◇</p> <ul style="list-style-type: none"> ■本書記載のデータ等記載内容は、代表的な実験値や調査に基づくもので、その記載内容についていかなる保障をなすものではありません。 ■ご使用に際しては、必ず貴社にて事前に試験を行い、使用目的に適合するかどうかおよび安全性について貴社の責任においてご確認ください。 ■本書記載の当社製品およびこれらを使用した製品を廃棄する場合は、法令に従って廃棄してください。 ■ご使用になる前に、詳しい使用方法や注意事項等を技術資料・安全データシートで確認してください。これらの資料は、弊社の営業担当部門で用意しておりますので、お申し付けください。 ■本書の記載内容は、新しい知見により断りなく変更する場合がありますので、ご了承ください。
--	--

Denka

デンカ株式会社 インフラ・ソーシャルソリューション部門 特殊混和材部
 〒103-8338 東京都中央区日本橋室町2-1-1
 電話 03-5290-5363 FAX 03-5280-5085